青少年とちぎ

令和５年３月３日
第222号

CONTENTS

- 1 「心豊かな青少年を育む県民のつどい」開催
- 2 青少年育成セミナー
- 3 栃木県青少年育成県民会議表彰
- 4 特集「栃木県青少年育成県民会議表彰」優良青少年団体の紹介
- 5 2022「家庭の日」絵日記コンテスト結果
- 7 市町村民会議活動報告
- 8 御寄附いただきました・少年の主張全国大会賞状伝達式

栃木県青少年育成県民会議
シンボルマーク

【発行】栃木県青少年育成県民会議（(公財)とちぎ未来づくり財団青少年育成課）
宇都宮市本町1-8　TEL028-643-1005　FAX028-650-5284　URL : http://www.tmf.or.jp　E-mail : ikusei@tmf.or.jp

「心豊かな青少年を育む県民のつどい」開催

「心豊かな青少年を育む県民のつどい」は、明日のとちぎを担う青少年が、夢と希望を持って心豊かでたくましく成長できるよう、家庭、学校、職場、地域などが相互に連携・協力をはかりながら、県民総ぐるみで青少年の健全育成を推進していく、その意識を高めることを目的に開催しています。今年度は、２月４日（土）に栃木県総合文化センターメインホールにて開催し、約 220 名の方が参加されました。

第１部は、開会行事の後、第 72 回“社会を明るくする運動”作文コンテストで栃木県推進委員会委員長賞を受賞し、全国コンテストで全日本中学校長会会長賞を受賞した、下野市立南河内第二中学校３年長谷川陽南さんによる作文（題名「一人一人が大切だから」）の朗読と、第 45 回少年の主張県大会最優秀賞を受賞し、全国大会で国立青少年教育振興機構理事長賞を受賞した大田原市立親園中学校３年阿久津結花さんの主張（題名「私が育てる『結（ゆい）』」）の発表を行いました。

長谷川さんは、伯祖母が自身の持つハンディに屈せず教員となり、退職後に保護司として精力的に活動していることや、その伯祖母の父である曾祖父が、ハンディを隠す風潮の時代にありながら、娘の個性を認め背中を押していたというエピソードから人生に無駄な経験はないと教えられたこと、ハンディを持っていても、何かを失敗しても、たとえ罪を犯しても、間違えたら修正して、前を見て、無駄なことは何一つないと考えて生きていくことが大切だと発表しました。

阿久津さんは、父や祖父の教えを受け、自分の田んぼで無農薬・無肥料・自然栽培の米を作り「結」と名づけて販売したところ、好評を博し多くの人々とつながることができたこと、自ら米作りを行うとともに収穫した米を商品として販売するなかで、様々な人との繋がりが多くの人を幸せにすることを知り、将来は米の可能性や農業のすばらしさを積極的に発信し、人との繋がりを大切にたくさんの人を笑顔にしたいと力強く発表しました。

続いて元厚生労働省児童家庭局 児童健全育成専門官である柳澤邦夫氏に「現代社会と子どもの心～ダイジェスト・今、子どもの心に何が起きているのか～」と題し講演いただきました。柳澤氏は、教員、行政職員、医療関係者として子どもたちと関わってきた経験から、子どもの生活にゆとりがなくなり、それが子どもの「困り感」の原因になっていること、子どもを育てる保護者や教員にもゆとりがなく悪循環になっていると話されていました。また、子どもたちの健全育成のためにも、社会環境を変えることが必要とのことでした。様々な事例を交えた講演は、参加者が子どもを取り巻く環境を知り、地域の一員としてできることを考えるよい機会となりました。

その後、栃木県警察音楽隊の演奏会が行われました。いちご一会とちぎ国体で演奏された「とちぎベリーヒットメドレー」をはじめ、アンコールの東京スカパラダイスオーケストラ「Paradise Has No Border」を含む９曲が演奏されました。参加者の皆さんは、音楽隊の素晴らしい演奏とカラーガード隊の華麗なパフォーマンスにすっかり魅了されていました。

青少年育成セミナー

本セミナーは、青少年を様々な角度から見つめ、大人としてどのように向き合っていけばよいのかを、講師を交えて考えることで青少年育成活動の一層の充実につなげるとともに、青少年の自立を支え社会への参加を促すための大人の役割を見直す機会とするため、今年度から実施した事業です。

第１～３回は、とちぎ青少年センターをメイン会場にオンラインも併用する形で開催し、各回とも50名以上の青少年育成関係者の皆様が受講されました。第4回は、2月4日（土）に実施した県民のつどいにおいて実施し、来場した220名の皆様に講話をお聞きいただくことができました。

第１回　「社会・環境の変化と子どもの不安・緊張 －50年間に何が？子どものストレスの正体を考える－」

元厚生労働省雇用均等・児童家庭局児童健全育成専門官　柳澤　邦夫氏

50年の間に社会が大きく変化したことで、子どもの放課後が無くなり、子どもだけで外遊びする姿が大幅に減少したことや、子どもも大人も忙しく、ストレスが多い生活を送っていることなどを様々な事例を挙げて御説明くださいました。青少年の健全育成に携わる大人たちが、子どもの困り感を減らす方策を考えていく必要があると気づかされました。　【8月31日（水）実施】

第２回　「児童虐待の現状と支援～通告は支援の入り口～」

栃木県中央児童相談所参事兼所長　篠原　良一氏

令和３年度の県内3つの児童相談所の通告受理件数は1,638件で、10年前の2.2倍と増加しているとの説明がありました。被虐待児童の発する虐待サインに周囲の大人が気付き、ためらわずに通告することが重要であり、「虐待の兆候は親子からのSOS」「通告は支援の入り口」「189（いちはやく）だれかじゃなくて　あなたから」などを念頭において、地域の青少年や子育て世代の様子に気を配り、積極的に関わることが虐待防止につながることがわかりました。

【10月7日（金）実施】

第３回　「ヤングケアラーの現状と地域社会が取り組むべきこと」

栃木県ケアラー支援に関する有識者意見交換会委員
那須塩原市ヤングケアラー協議会　仲田　海人氏

小学校高学年からきょうだいヤングケアラーを経験され、現在も若者ケアラーとして御家族のケアを行っている経験や、国や県の調査結果からわかることなどについて御講話いただきました。御自身の経験から、周囲の大人の対応が変わる必要があることを強く感じていること、特に子どもにとって頼りやすい身近な存在である学校関係者が理解を深めることや、周囲の大人が助けようと焦らずに本人のペースを尊重しながら支援することが大切とわかりました。

【11月24日（木）実施】

※第4回の内容は、「県民のつどい」の記事に掲載しています。

栃木県青少年育成県民会議表彰

令和４年11月17日（木）に栃木県公館で「令和４年度栃木県青少年健全育成功労者等表彰式」を開催しました。

栃木県青少年健全育成表彰、「家庭の日」絵日記コンテスト入賞者表彰とともに、栃木県青少年育成県民会議表彰、栃木県青少年育成県民会議賛助会員感謝状贈呈を執り行いました。

このうち、栃木県青少年育成県民会議（（公財）とちぎ未来づくり財団）より表彰された方々は以下のとおりです。（五十音順、敬称略）

栃木県青少年育成県民会議表彰

明日の栃木県を担う青少年の健全育成を促進するため、「とちぎの子ども育成憲章」の理念に沿った活動をもって、青少年の育成に功績のあった、個人、団体及び社会貢献青少年、優良少年団体を表彰しました。

子ども育成・憲章功労者

青木　利男
大貫由美子
佐々木文子
佐藤　　亘
諏訪美津枝
綱川　敬子
増渕　洋子
山﨑　　明
秋葉　之浩
岡野　　忠
佐藤　富夫
諏訪　哲夫
髙木　雅夫
細田　高志
村上　英智
若井　俊夫
阿部　文子
刑部　　弘
鵜飼　雅子
小野　節子
江田　裕信
片野　真恭
海老原治男
川村　公利

子ども育成・憲章功労団体

鹿沼市立津田小学校読み聞かせボランティア
祇園小お助け戦隊ギオンジャー
田原駐在所パトロール協議会
西田井小学校スクールガード
川東寿会
たかはらパトロール隊
西高野五段囃子保存会
兵庫塚自治会

社会貢献青少年

（今年度該当者なし）

優良青少年団体

宇都宮共和大学子ども生活学部親子遊びの会
芳賀町ジュニアボランティア

栃木県青少年育成県民会議賛助会員感謝状贈呈

20年以上継続して賛助会員に加入していただいた方に感謝状を贈呈しました。

個人会員

佐々木和美

団体会員

一般財団法人 栃木県青年会館

特集「栃木県青少年育成県民会議表彰」優良青少年団体の紹介
～宇都宮共和大学子ども生活学部「親子遊びの会」における子育て支援活動～

宇都宮共和大学子ども生活学部では、子どもの豊かな生活環境を創造できる保育者を養成しています。このため、社会連携や地域貢献の活動を行う「子育て支援研究センター」が設置されており、その活動の一つとして「親子遊びの会」があります。

当会は、未就学児を育てる地域の子育て家庭を対象として、子どもの遊びや親子関係の支援、家族同士の繋がり作り等を目的にさまざまな活動を行っています。また、学生が主体的に運営に携わることで、保育実践力やコミュニケーション能力などの育成に繋げています。

2022年度は「地域に寄り添う」を目的に、宇都宮市の子育てサークル『Kodomomフィットネス』と連携しました。5月から子育てサークルと企画会議を重ね、地域のニーズに沿った活動とは何かを考え、環境構成・教材を検討し、11月に本学で「親子フィットネス」というイベントを開催しました。

初めての子育てサークルとの共同事業であるため、まずは地域と大学との連携について学習会を行いました。外部講師のお話から、一人で「孤育て」を行う親を地域と繋げ、共に子どもを育てる繋がりの場を作ることが大切であることを学びました。また、イベント開催に向けて共同で準備を行うなかで、サークル代表から「同じように子育てに悩む親を支えたい」という願いを伺いました。しかし、子育てサークルは、利用者の入れ替わりが多いこと、集まる場所の確保が難しいことから、活動の継続が課題であることも教えていただきました。私たち学生は、このような地域の現状に関心を持ち、授業で得た保育の知識や技術を活かして、遊びで子育て家庭を支えることを具体的に考えました。

こうした経過を経て、子育てサークルと共同で「親子フィットネス」をテーマとして、ふれあい体操やかけっこなど親子で触れ合う活動を行いました。当初は、慣れない環境に緊張して保護者のそばで過ごしていた子どもたちも、次第に大好きな保護者と手を繋いだり抱きしめられたり、満面の笑みを浮かべる姿を見ることができました。子どもたちは、初めて会った学生の手を自ら繋いで、積極的に玉入れやダンスを一緒にしてくれて嬉しく思いました。

保護者の方からは、「子どもたちの目がキラキラしていた」や「笑顔で楽しんでいる子どもたちをみて癒された」との言葉をいただき、子ども、保護者共に楽しめる場を提供できたことの達成感を味わいました。0～6歳という幅広い年齢の子どもが参加するイベントであるからこそ、さまざまな発達段階の子どもの姿に接することができました。こうして、学生の深い学びになっただけでなく、保護者もよい刺激を得ることができたと思います。

今年度の活動で子育てサークルと連携したことにより、地域のニーズに寄り添ったイベントの開催に繋げることができました。学生にとって地域の子育て支援について関心を持ち、実践する契機となりました。

今後も、子育てサークルと連携を継続して、地域と子育て家庭を繋ぐイベントの開催を継続的に開催していきたいと思います。親子が安心して参加できるプログラム開発に向けて、学生同士の学び合いを深めていきたいと思います。

宇都宮共和大学子ども生活学部　4年　金子花菜　橋本実咲　寄稿

とちぎ心のスクラム県民運動

毎月第３日曜日は
ふれあい育む
家庭の日

2022家庭の日 絵日記コンテスト結果

ふれあい育む「家庭の日」を広報・啓発し、県民総ぐるみで青少年の育成に取り組むために、家族のふれあいや思い出等をテーマに2022「家庭の日」絵日記コンテストを実施しました。今回は1,243点の応募がありました。いずれも子どもたちの家族への感謝や家族を大切に思うやさしさにあふれ、心温まる作品ばかりでした。たくさんの作品をご応募いただきありがとうございました。

入賞作品13点は(公財)とちぎ未来づくり財団ホームページにも掲載されておりますのでぜひご覧ください。（https://www.tmf.or.jp/r4contest.html)

最優秀賞

下野市立国分寺小学校
星　心希さん
「ままのギュー」

優秀賞

認定こども園アルス幼稚園
出井　悠さん
「むしとり」

優秀賞

下野市立緑小学校
木村　有作さん
「大切な時間」

優良賞

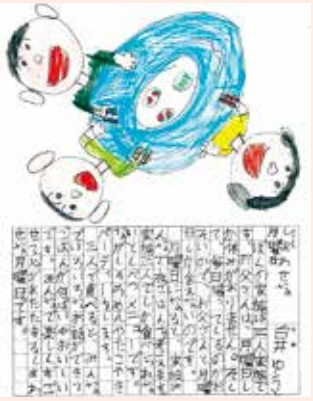
壬生町立壬生北小学校
佐藤　奏さん
「ぼくのたのしみ」

小山市立若木小学校
小嶋　紬生さん
「りょこうにいったよ。」

那須塩原市立大原間小学校
笹沼　陽さん
「いもうと」

宇都宮市立篠井小学校
阿久津　瑛仁さん
「ぼくの家ぞく」

佐野市立犬伏小学校
熊倉　大記さん
「学どうのおべんとう」



下野市立国分寺小学校
白井　悠斗さん
「しあわせな月曜日」

宇都宮市立横川東小学校
田澤　芽依さん
「はじめてのつりぼり」

大田原市立大田原小学校
前島　舞葉さん
「お盆が大好き」

小山市立小山城北小学校
塩山　紗蘭さん
「四人家族の時間」

宇都宮市立横川東小学校
鯉淵　遥さん
「花火」

市町村民会議活動報告

さくら市少年指導委員会

さくら市青少年センターでは、26名の少年育成サポーターが4つの班に分かれて体験活動の運営や研修会の開催、広報紙の発行などの活動を行っています。

「ICT研究班」では、「広報啓発班」と協力して、子どもたちのICT利用についての啓発活動を行っています。令和4年度は、小学校の低学年を対象にした「親子ICT講座」をはじめて実施しました。内容は、とちぎネット利用アドバイザーによるネット利用に関する講座と親子プログラミング体験です。さくら市内の小学１～4年生とその保護者に募集を行い、2回の開催で94名が参加しました。プログラミング体験は、地域企業の方を講師として無料で利用できる「SCRATCH」を使用しました。また、タブレットは市内の小学校から借用し、一人１台の端末で体験することができました。参加者からは、「はじめて親子でスマホの利用について話をした」、「来年も参加したい」などの声もあり、ニーズの高い講座だったと感じています。対象年齢、内容など課題や改善点はありますが、継続的実施の必要性を感じています。

学校でのタブレット学習が進んでいる中、低学年のうちから子どもたちがインターネットの利用について考える機会をつくること、また、プログラミング体験を通して論理的思考を楽しく身に付けてほしいと思っています。

下野市青少年育成市民会議

第13回子どもなんでも発表会

市内の小学生が自分の好きなものや得意なことを紙にまとめて紹介する展示会を、「第13回子どもなんでも発表会」として、下野市青少年育成市民会議と下野市子ども会育成会連絡協議会で構成する実行委員会の主催により、令和４年12月18日（日）から令和５年１月５日（木）にかけて市役所1階市民ロビーにて開催しました。

本発表会は、子どもたちが好きなことや得意なことを発表する機会をつくり、自己肯定感を育むことを目的とし、平成20年度から継続している事業です。これまではピアノやけん玉などを披露するステージ発表でしたが、令和２、３年度の新型コロナ感染拡大による中止を経て、初めて展示形式で行いました。

作品募集の際は、市内全小学校に協力いただき、募集チラシを全児童へ配布するとともに、校舎に応募箱を設置し、25作品64名の児童から応募がありました。

作品のテーマは、趣味の登山や習い事のバレエ、ダンボールで作ったショベルカー、クリスマスツリーなど多種多様で、また、動画を視聴できるようＱＲコードを掲載した作品もあり、自分たちの好きなことや夢中になっているものへの想いで溢れる作品が並びました。

なお、会期のうち12月25日（日）は、十分な感染対策をとったうえで、紹介したい実物を実際に展示しました（希望者のみ）。

また、会場を訪れ作品を鑑賞した方から子どもたちに対するメッセージをいただくため、メッセージボードを設置しました。

御寄附いただきました

菊池宏行氏（東京石灰工業㈱代表取締役社長）

当財団の評議員を務める東京石灰工業株式会社及び佐野ガス株式会社の代表取締役社長である菊池宏行氏から、50万円が栃木県青少年育成県民会議へ寄附され、令和4年12月９日(金)に栃木県庁において寄附金ならびに感謝状の贈呈式が行われました。

菊池社長には“青少年の健全育成に役立ててほしい”という思いから毎年御寄附いただいており、今回で13年目になります。

当日は、菊池社長から寄附金の目録が県民会議会長の福田富一知事に手渡され、会長からは感謝状が贈呈されました。

栃木県更生保護女性連盟

令和５年1月13日(金)に栃木県更生保護女性連盟から「愛の募金」を御寄附いただきました。栃木県更生保護女性連盟の皆様方からの御支援は、少年の主張発表大会をはじめとした青少年健全育成事業で活用させていただいております。

また、栃木県更生保護女性連盟からは「栃木県少年の主張発表県大会」出場者に対する記念品として、長年にわたり図書カードを御提供いただいております。９月17日(土)に栃木県総合文化センターで行われた県大会において、栗田会長から出場した生徒に記念品を手渡していただきました。

少年の主張全国大会賞状伝達式

令和５年１月31日(火)、県庁において第44回少年の主張全国大会で国立青少年教育振興機構理事長賞に輝いた大田原市立親園中学校３年阿久津結花さんに対し、賞状伝達式が行われ、知事から表彰状や記念品が手渡されました。その後、保護者や引率の先生も交えて阿久津さんが栽培しているお米のことやパッケージのデザインに込めた思い、今後の抱負などについて和やかに歓談しました。